

学校法人加茂暁星学園  
新潟中央短期大学  
機関別評価結果

平成 26 年 3 月 13 日  
一般財団法人短期大学基準協会

## 新潟中央短期大学の概要

設置者 学校法人 加茂暁星学園  
理事長 藤田 敏明  
学 長 馬場 昭夫  
A L O 村木 薫  
開設年月日 昭和 43 年 4 月 1 日  
所在地 新潟県加茂市学校町 16-18

### 設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
幼児教育科		80
	合計	80

### 専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

### 通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

## 機関別評価結果

新潟中央短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 26 年 3 月 13 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 24 年 7 月 11 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて改善に努めており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神は仏教の精神に基づき「業学一如」とし、学生案内パンフレット、学生便覧、ウェブサイトに掲載するなどして浸透を図っている。また、建学の精神を共有する「新潟中央短大ミュージカル」や大昌寺での「座禅学修」等、学生が建学の精神を理解する機会を設けている。なお、教育目的・目標は学生便覧、学生案内パンフレット、ウェブサイト等に明確に示され、それらを通じて学内外に周知されている。

学習成果の向上・充実を図るため、「学習成果を焦点とした PDCA サイクル」を設定し、学生が習得すべき学習成果を教育目的・目標に連動した 4 分類（知識・技能・態度・実践）、及びそれを細分化した 27 項目に設定しており、授業科目「保育・教職実践演習」のカルテ「保育者として必要な資質・能力について」を作成し、その点検を行っている。また、卒業要件である最低取得単位数を、74 単位と定め、2 年次学生全員に卒業研究を課すことで、教育の質向上に努めている。

平成 6 年から自己点検・評価委員会を組織し、報告書を全学体制で執筆・刊行している。また、平成 24 年度には帝京学園短期大学との相互評価を実施しており、自己点検・評価活動を通じた向上・充実に向けての努力がなされている。

平成 22 年度、教育目標に基づいた学位授与の方針を「育てたい学生像」、教育課程編成・実施の方針を「授業構成について」、入学者受け入れの方針を「求める学生像」として明確に定め、学生案内パンフレット、ウェブサイト等で周知している。また、教育課程には個人カルテを導入しているゼミナール形式の授業や、ミュージカルの制作・上演を課す授業等、特色のある科目が多い。なお、評価の過程で、15 週の授業のうち多くの授業で 15 週目に定期試験が生まれ、1 単位当たり 15 時間の授業が確保されていなかったという、早急に改善を要する事項が認められたが、その後、短期大学設置基準にのっとり改善されたことを確認した。今後は教育課程編成・実施の方針の下、継続的な教育の質保証を図るとともに、その向上・充実に向けたより一層の取り組みが求められる。

入学者受け入れの方針は 3 箇条に要約され、学生案内パンフレット、ウェブサイト、

学生募集要項、学生便覧等に明確に示されている。また、全ての入学者選抜において面接を実施しており、この方針に適合しているかを審査している。

卒業後評価として卒業生からと職場からの 2 種類のアンケートを実施し、授業内容及び学習成果の点検に活用している。また、授業評価は教員間でも実施しており、教育の質向上に努めている。

学習支援のために教養基礎演習を設けるなど、組織的に取り組んでいる。さらに、就職指導室に専任の職員を配置して、教員とともに指導に当たっている。また、教育課程が保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状取得に向けて編成されていることから、教員との連携を図りながら進路支援を具体的に推進している。

教員組織は、専任教員数及び教授数ともに短期大学設置基準を満たし、適切に編成されている。専任教員による研究活動は活発であり、また研究紀要『暁星論叢』を年 1 回発行し、ウェブサイトで公表している。FD 活動は規程に基づき、専任教員間の授業評価などが継続して実施されている。

また、SD 活動は事務長の下、適切に運営されている。

施設設備には、幼児教育科にふさわしい講義室、音楽実習室、ピアノ練習室等の他、図書館、コンピュータ室、体育館を有しており、校地・校舎面積、施設設備は短期大学設置基準を満たしている。

財的資源については、学校法人全体では平成 23 年度以降は収入超過を維持しており、正常状態である。短期大学部門でも定員を充足しており、過去 3 年間いずれも収入超過となっている。

理事長をはじめとする理事は、学校法人内設置校の運営全般にわたる職務を執行している。学長はプレカレッジ、入学式の式辞、自ら担当している「哲学」の授業等を通して、学生と積極的に接する機会を設けている。また、学則に基づいて定例教授会を月 1 回、臨時教授会を適時開催しており、学長がリーダーシップを発揮している。

学校法人が設置する各学校間で共通の会計システムを導入し、円滑に業務が遂行できるように整備され、資産の管理・運用等も適切に行われている。また、関係法令に基づき、教育情報は短期大学ウェブサイトで公表し、財務情報は学校法人ウェブサイトで公開している。なお、評価の過程で、理事及び評議員が寄附行為に定められた定数を満たしておらず、また、監事による監査報告書及び監査意見書にこの件が指摘されていなかったという、早急に改善を要する事項が認められたが、その後、機関別評価結果の判定までに改善されたことを確認した。今後は法令遵守の下、適切な学校法人運営が求められる。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

## (1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

- 平成 18 年度の第三者評価で指摘された、「建学の精神を語るのにいくつかの表現がみられる」という課題については、表現を統一し改善されている。また、平成 15 年度文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」(特色 GP) に選定・採択された「新潟中央短大ミュージカル」を継続して実施しており、学生の実務教育のみならず、人格形成にも役立っている。

[テーマ B 教育の効果]

- 卒業生などによる外部評価、離職状況についてのアンケート調査、相互評価なども実施しており、教育の効果の検証に取り組んでいる。

[テーマ C 自己点検・評価]

- 平成 24 年度に帝京学園短期大学と相互評価を実施しており、教育の向上・充実のための PDCA サイクルのあり方や学習成果を焦点とする査定の手法などについて課題を抽出するとともに、対策について取り組みを開始している。

### 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 学習成果を 4 分類(知識・技法・態度・実践)及びそれを細分化した 27 項目として、具体的に明示している。また、学生の個人カルテを作成し、担当教員と学生双方が学習状況を確認できるよう工夫している。

[テーマ B 学生支援]

- 学習支援のために、教養基礎演習を設け、学年ごとに 2 人の担任を配置し、学習・生活面のきめ細かい連携指導に当たっている。

## (2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果(合・否)と連動するものではない。

### 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ A 人的資源]

- 短期大学の事務組織を整備し、人事異動による業務担当者間でのスムーズな連携

が損なわれないように、業務のマニュアル化を推進するなどの対策を講じられたい。

### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

#### 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

##### [テーマ A 教育課程]

- 評価の過程で、多くの授業科目で 15 週目に定期試験が生まれ、1 単位当たり 15 時間の授業が確保されていなかったという問題が認められた。

当該問題については、機関別評価結果の判定までに対処し、教育研究の改善に努めていることを確認した。今後は教育課程編成・実施の方針の下、継続的な教育の質保証を図るとともに、その向上・充実にに向けた取り組みにより一層努められたい。

#### 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

##### [テーマ C ガバナンス]

- 評価の過程で、理事及び評議員が寄附行為に定められた定数を満たしておらず、また、監事による監査報告書及び監査意見書にこの件が指摘されていなかったという問題が認められた。

当該問題については、機関別評価結果の判定までに対処し、その運営の改善に努めていることを確認した。今後は当該短期大学の継続的な教育の質保証に資するべく、理事会、評議員会、監事本来の機能を確認し、より一層学校法人運営の向上・充実に取り組まれたい。

### 3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	基準	評価結果
基準Ⅰ	建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ	教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ	教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ	リーダーシップとガバナンス	合

#### 各基準の評価

##### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

前回の第三者評価の指摘を受け、建学の精神を新たに「業学一如」と定め、学生案内パンフレット、学生便覧、ウェブサイトに掲載して浸透を図っている。入学式、卒業式などの式典において、学長告示による学内共有に努めている。また、建学の精神を共有する「新潟中央短大ミュージカル」や大昌寺での「座禅学修」等、学生が建学の精神を理解する機会を設けている。

教育目的・目標は建学の精神に基づき、学則をはじめ、学生便覧、ガイダンス、学生案内パンフレット、ウェブサイト等に明確に示され、学内外に周知されている。

学習成果は、教育目的・目標に連動した4分類（知識・技能・態度・実践）及びそれを細分化した27項目と明確に設定しており、授業科目「保育・教職実践演習」のカルテ「保育者として必要な資質・能力について」を作成し、成果の点検を行っている。

平成24年度に帝京学園短期大学との間で実施した相互評価を通してPDCAサイクルが策定され、学生の修得すべき学習成果が、教育目標である「知識」、「技能」、「態度」及び「実践」の中に、それぞれ具体的基準項目として分かりやすく設定されている。学習成果を焦点とする査定（アセスメント）の手法は、このPDCAサイクルの中に組み込まれており、様々な外部評価、アンケート調査、相互評価によってフィードバックが行われている。また、卒業要件である最低取得単位数を、74単位と定め、2年次学生全員に卒業研究を課すことで、教育の質向上に努めている。

平成6年から自己点検・評価委員会を組織し、報告書を全学体制で執筆・刊行している。平成24年度には帝京学園短期大学との相互評価を実施しており、自己点検・評価活動を通じた向上・充実に向けての努力がなされている。

##### 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

平成22年度に教育目標に基づいた学位授与の方針を「育てたい学生像」として明確に定め、学生案内パンフレット、ウェブサイト等で周知している。教育課程は、学位授与の方針（育てたい学生像）及び教育課程編成・実施の方針（授業構成について）に対応して策定した六つの要素から体系的に編成されている。また、個人カルテを導入しているゼミナール形式の授業や、ミュージカルの制作・上演を課す授業等、特色

ある科目が多い。なお、定期試験を含まない、1単位当たり15時間の授業が確保されていなかった点については、機関別評価結果の判定までに対処し、教育研究の改善に努めていることを確認した。

入学者受け入れの方針は「求める学生像」として3箇条に要約され、学生案内パンフレット、ウェブサイト、学生募集要項、学生便覧等に明確に示されている。また、全ての入学者選抜において面接を実施しており、入学者受け入れの方針に適っているかを審査している。

学習成果の査定内容は知識、技能、態度、実践の四つに分類し、さらに27項目を具体的に設けている。知識に関しては定期試験結果、レポートの記述、制作物、授業態度等で、技術、態度、実践は制作物、実習等でそれぞれ査定している。

卒業後評価として「学生時代アンケート」（卒業生からの評価）と「卒業生動向アンケート」（職場からの評価）の2種類のアンケートを実施し、授業内容及び学習成果の点検に活用している。なお、授業評価は教員間でも実施しており、教育の質向上に努めている。また、授業評価の結果を基に学長が個人面談を実施している。

チームティーチング、実習委員会等、複数の教員が学生個々の学習成果を支援する体制が整っている。また、事務職員が履修状況や各種要件などをチェックする体制となっており、不足単位数のアドバイスをを行うなど、学習成果の獲得に向けて細かな配慮がなされている。基礎学力不足の学生に対して教養基礎演習を設けており、学年ごとに2人の担任を配置し、複数教員の目が行き届く体制となっている。さらに、ゼミ担当教員と連携して学習・生活面のきめ細かい連携指導に当たるなど、組織的に取り組んでいる。

就職支援のための教職員組織が整備されており、就職指導室に専任の職員を配置して、教員とともに指導に当たっている。また、教育課程が保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状取得に向けて編成されていることから、教員との連携を図りながら進路支援を具体的に推進している。

学生募集広報は教職員による高等学校訪問、オープンキャンパス、各種進学説明会で実施している。入学予定者に対しては郵送で各種情報を提供し、プレカレッジやガイダンスを実施し、志願者及び入学者に対して適切かつ正確に情報が伝わるように体制が整備されている。

### 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教員組織は、専任教員数及び教授数ともに短期大学設置基準を満たし、適切に編成されている。過去5年間の教員の研究活動としては、学内公募によるプロジェクト研究費の制度などによって、業績をあげている。また、研究紀要『暁星論叢』を年1回発行しており、ウェブサイトで公表されている。FD活動は規程に基づき平成20年度から隔年で、専任教員が互いの授業を評価し、また非常勤教員の授業を参観するなど、継続して実施している。

SD活動は平成23年度から実施し、平成24年度には規程も整備されている。なお、短期大学の事務組織については、業務担当者間でのスムーズな連携が図られるよう整

備されたい。

施設設備として、幼児教育科にふさわしい講義室、音楽実習室、ピアノ練習室等を有しているほか、図書館、コンピュータ室、適切な面積の体育館を有しており、校地・校舎面積、施設設備は短期大学設置基準を満たしている。また、平成 25 年度に、図書館の蔵書検索機能等の充実を図るため、併設大学の図書館システムへの移行を予定している。また、平成 24 年度理事会で併設大学敷地内への校舎移転・新築計画が決定され、バリアフリーも検討中である。

施設設備の維持管理のための各種規程を整備しているほか、施設の定期的なメンテナンス、防犯・防災警備を外部の専門業者に委託し実施している。コンピュータセキュリティ対策は専門業者によって策定されており、全教職員のパソコンにはウィルスチェックソフトを導入している。また、消防設備点検、浄化槽保守点検、電気設備点検が定期的に行われ、アスベスト除去工事、耐震診断、節電対策も積極的に実施されており、成果をあげている。

財的資源について、学校法人全体では平成 23 年度以降、収入超過を維持しており、正常状態である。短期大学部門は定員を充足しており、過去 3 年間いずれも収入超過となっている。なお、短期大学部門の教育研究経費比率は、学校法人全体と比較して低い水準となっており、教育の質向上のため予算の確保等について検討されたい。

#### 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事及び評議員が寄附行為に定められた定数を満たしておらず、また、監事による監査報告書及び監査意見書にこの件が指摘されていなかった点については、機関別評価結果の判定までに対処し、その運営の改善に努めていることを確認した。

学長は学長選考規程に基づいて選任され、大学運営に関する識見を保持するよう努めている。学長は建学の精神をプレカレッジ、入学式の式辞、自ら担当している「哲学」の授業で説明している。また、学則に基づいて定例教授会を月 1 回、臨時教授会を適宜開催し、学習成果をあげる手立てや三つの方針を常に検討するようリーダーシップを発揮している。また、学長及び教授会の下に委員会が設置され、委員会規程に基づいて運営されている。

毎年度の予算編成と事業計画は全体の意向を集約して作成され、成立した予算の執行も適切になされている。会計報告は毎月、会計係長から法人事務局長を通じて理事長に報告を行っている。計算書類、財産目録等は、学校法人の経営状況及び財政状態を適正に表示している。公認会計士の定期的な監査が実施されており、また、学校法人が設置する各学校間で共通の会計システムを導入し、円滑に業務が遂行できるように整備されている。資産運用も適切に行われている。学校教育法施行規則、私立学校法に基づき、教育情報は短期大学ウェブサイトで公表し、財務情報は学校法人ウェブサイトで公開している。

## 選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは 4 基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4 基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

## 地域貢献の取り組みについて

### 総評

入学生の 90 パーセント以上が新潟県出身者であり、卒業後の進路もその大部分が新潟県内と、地域の要請に応える短期大学であると認知されている。特に保育士、幼稚園教諭の育成に特化していることから、地域社会における幼児教育の拠点としての役割が大きい。学生の実習等で地域社会に育ててもらおう面と、ミュージカルの公開や出前保育等、地域に積極的に入っていく面があり、双方向で深く地域に根差している。

昭和 61 年以来、現在まで 27 年間継続して実施している「新潟中央短期大学ミュージカル」は、地元の園児や生徒らと共演するなど地域に密着した取り組みとして、平成 15 年度の特徴 GP に採択された。この取り組みは地域貢献だけでなく、学生の人的成長に対しても教育効果をあげている。

さらに、当該ミュージカルを、地域の小学校との連携という形で新たな価値をみだし、小学生の総合学習における学びとして地域に貢献している。これは、限られた時間の中で対象に合わせた内容の構築など、保育を学ぶ者に求められる献身的態度が表れたものであり、当該短期大学の特色を示す活動である。

また、幼児教育科開設以来、30 年間継続して開催している保育研究会は、保育に関する情報発信の役割を担っており、地域に貢献している。近年では講演中心型からワークショップ型へと方式の変更を試みるなど、参加者の確保に努力している。

一方、教職員と学生のボランティアによる出前保育を平成 14 年度から実施しており、保育所などの施設からの求めに応じてダンスや劇などを披露し、学生たちの経験値アップにつながっている。特に、遠隔地にまで出向き実施するという点で、一般的な固定会場での「学生による託児」とは異なり、依頼者のニーズに柔軟に対応している。

### 当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 「新潟中央短期大学ミュージカル」を昭和 61 年以来、現在まで 27 年間継続実施している。地元の園児や生徒らと共演するなど地域に密着した取り組みとして、平成 15 年度の特徴 GP に採択された。この取り組みは地域貢献だけでなく、学生の人

間的成長に対しても教育効果をあげている。また、近隣の小学校から総合学習を受け入れて、ミュージカルの指導も行っている。

- 幼児教育科開設以来、30年間継続して開催している保育研究会は、保育に関する情報発信の役割を担っており、地域に貢献している。近年では講演中心型からワークショップ型へと方式の変更を試みるなど、参加者の確保に努力している。
- 教職員と学生のボランティアによる出前保育を平成14年度から実施しており、保育園などの施設からの求めに応じてダンスや劇などを披露している。この取り組みは学生たちの経験値アップにつながっている。特に、遠隔地にまで出向き実施するという点で、一般的な固定会場での「学生による託児」とは異なり、依頼者のニーズに柔軟な対応がなされており、当該短期大学の特色が表れた活動である。